

## 田辺かずき 県政報告

福岡発！ただいま政治刷新中！

第44号  
2017年12月発行

<田辺かずき事務所>  
〒811-3103 福岡県古賀市  
中央 1-6-41-203  
TEL : 092-692-8510  
FAX : 092-410-7730  
メール : challenge@tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります！】  
■広域連携の地域振興  
■人工内耳の助成制度

### 田辺の提案受け、県教委が検討 看護職員の確保を推進

福岡県教育委員会は、人工呼吸器と酸素療法が必要な子どもに対する高度な医療的ケアについて、県立特別支援学校で2018年度以降に実施するための検討に入る方針を示しました。県議会9月定例会の本会議で、私の一般質問に対し、城戸秀明教育長が明らかにしました。県立の特別支援学校では、看護職員を配置し、たんの吸引、

経管栄養、導尿等の子どもに対する医療的ケアを実施していますが、高度な医療的ケアが必要な人工呼吸器や酸素療法は対象になっていません。このため、子どもが学校にいる間、保護者が学校に常時待機することを求められています。私はこうした現状につ

「高度な医療的ケアの実施も視野に入れ、看護協会や訪問看護ステーションなどの関係機関とも連携し、高度な技量を有する看護職員の人材確保に努める」との方針を示しました。

「障がいのある子ども、障がいのない子ども、教育を受け、社会で生きていくための基礎を築いていくことは普通の権利」との考えから、私は特別支援教育の充実と強化を継続的に求めてきています。引き続き、子どもへの気持ちをしっかりと受け止め、最良の教育環境を提供できるよう全力で取り組んでいきます。



### 福岡開催 2019ラグビーW杯を盛り上げよう！

福岡県も試合会場となる2年後のラグビーワールドカップに向け、県も機運醸成に向けた様々な取り組みを推進。そして、古賀市出身の福岡堅樹選手は私の高校同窓でもあります。みんなで応援していきましょ！

この提案に対し、城戸教育長は、人工呼吸器や酸素療法が必要な子どもについても「できる限り、(県の)医療的ケア体制整備事業の対象とすることが望ましい」と述べ、学校現場の看護職員に求める技量の高度化や職員確保などの課題について専門家の助言を求めながら協議し、2018年度以降の対応を検討する考えを表明。そのうえで、



教育長に医療的ケアの体制強化を求めた一般質問=9月20日

政治家が地域をくまなく回り、住民の皆さんと顔を合わせることが民主主義の

田辺の政治活動を連日発信中！

田辺かずき で 検索

- ブログ <http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>
- ホームページ <http://www.tanabe-kazuki.jp/>
- facebook <http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>
- Twitter アカウント→ @tanabe\_kazuki



基本。「政治が手元にある」と実感していただける環境をつくるのが政治家の責務と考えます。冬は各地のもちつきも回らせていただいています！



# 地域振興 — 宗像・福津・古賀・糟屋の広域連携の重要性

## 子どもを育てる文化・芸術 — 劇団ダイコン公演

やっぱり舞台は楽しい！古賀市の「劇団ダイコン」さんの公演は今年も大成功でした。私も5年連続5回目の友情出演。

ダイコンの大きな魅力は地元の小中学生から大人まで様々な世代が力を合わせ、地元の歴史と風土を題材としたオリジナル作品をつくり上げること。そこで、子どもたちが成長していけること。一生懸命な演技、ダンス、歌、そして、生き生きとした表情は、子どもの可能性の大きさを実感できます。さらに、地元のユカリクラシックパレエさんや玄海古賀太鼓さんをはじめ様々な他の団体さんも公演を支え、地域の絆が強くなります。

ダイコンの活動は青少年育成と文化振興を図る目的から県もスタートアップを支援してきました。だからこそ、政治家として、地元の県議として「現場」で深くかわり、ともに盛り上げていかなければならないと思っています。

宗像市、福津市、古賀市、糟屋郡の広域連携がこれからの地域振興にとって重要との考えに立ち、日々の活動を展開しています。県議会9月定例会の本会議では、この観点から「世界遺産の保存と活用」をテーマとした質問も行いました。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されましたが、その効果を広げていくためには、宗像・福津両市だけでなく構成資産のない県内各地の市町村でも登録を契機とした取り組みを推進する必要があります。



広域地域振興を提起した一般質問＝9月20日

## 人工内耳の体外機 買い替え助成の促進

今回の構成資産の周辺にも、江戸時代に唐津街道の宿場町だった宗像市の赤柳宿、福津市の畦町宿、古賀市の青柳宿、朝鮮通信使が寄港していた新宮町の相島、そして昭和初期まで塩田の積出港として栄えた福津市の津屋崎千軒や、「国宝級」ともいわれる多数の馬具が出土している古賀市の船原古墳などがあります。そこで本会議で、宗像・沖ノ島と関連遺産群を福岡県の「観光振興の核」と位置づけたいうえで、宗像・福津両市だけでなく、周辺の古賀市や糟屋郡、さらには県内全域にその効果を広げていくように求めました。

私の提案に対し、県は「今後さらに県内を訪れる観光客の満足度を高めるためには、観光資源の展示方法や案内表示の工夫、おもてなしの向上など地域を挙げた改善の取り組みが必要」「市町村、観光協会などと協議する場を増やし、地域の皆さんの意欲を高め、県内各地の観光振興につなげる」との考えを示しました。

就学前のお子さんが人工内耳を装着している保護者の方から問題提起をいただき、県議会本会議で質問しました。人工内耳の装着は高度の難聴の方にとって大切です。特に、言語習得期にあたる幼少期からの装着が重要ですが、現在、約100万円と高額な体外機などの買い替えには基本的に公的支援がありません。こうした状況を受け、県内では筑後市が独自に体外機買い替えへの助成制度を創設し、福津市でも前向きな動きが出ています。そこで、私から、県として市町村の制度創設を後押しするように強く求めました。県は「市町村ごとの個別ヒアリングの機会を捉え、重度の難聴者に人工内耳がもたらす効果の重要性、先進市町村の取り組み事例などについて、丁寧に説明し、実施していかない市町村の理解を深めたい」と表明。障害者総合支援法に基づく日常生活用具を給付する事業の積極的な活用を市町村に働きかけ、助成制度の拡大を図る考えを示しました。あわせて、国に対し、補聴器と同じように人工内耳を「補装具」と定めて支給対象とするように要請することを求め、県もこれに応じました。

## <田辺かずき プロフィール>



- 1980年 5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園 卒園
- 1993年 花鶴小学校 卒業
- 1996年 古賀中学校 卒業
- 1999年 福岡県立福岡高校 卒業  
(高51回、現在は同窓会顧問)
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業  
毎日新聞社 入社、福井支局 配属
- 2006年 大阪本社社会部 配属
- 2011年 福岡県議会議員 初当選  
厚生労働環境委員会（～13年）  
国際交流推進対策調査特別委員会（～13年）
- 2013年 新社会推進商工委員会（～15年）  
防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会（～15年）
- 2015年 福岡県議会議員 2期目当選  
広域行政推進対策調査特別委員会・副委員長（～17年）
- 【所属】 福岡県議会・農林水産委員会  
同・スポーツ振興・国際交流推進調査特別委員会  
同・タイ友好議員連盟事務局長  
同・スポーツ議員連盟幹事  
民進党【衆議院】福岡県第4区総支部代表代行  
民進党全国青年委員会事務局長
- 【家族】 会社員の妻、10歳の長男、7歳の長女  
古賀東小学校PTCA会長（PTCA=PTA+地域のC）



## みなさんとともに — 地域での活動



## 田辺かずき事務所からのお知らせ

### 【対話集会を開催】

私の政治活動は県民の皆さんの「声」があってこそ。各地の公民館で対話集会を開催しており、ご連絡をいただければサークル活動などにも足を運び、活動報告と意見交換をさせていただいています。事務所（092-692-8510）まで。

### 【県政報告書の発送】

ブログやフェイスブックなどによる連日の情報発信に加え、紙ベースの報告書（1～2カ月に1回のペースで発行）で活動をお伝えしており、ご希望の方には郵送させていただいています。事務所（092-692-8510）までご連絡ください。